

# 乾癬overview： 疫学と診断

聖マリアンナ医科大学皮膚科 門野 岳史

## KEY WORDS

- PASI
- DLQI
- 罹患率
- 疫学

## はじめに

乾癬は近年増加傾向にある炎症性角化症で、角化性紅斑が四肢・体幹・頭部・顔面に出現する。わが国において乾癬は比較的まれな疾患と考えられていたが、患者数は徐々に増加傾向にある。患者数の増加にはいくつかの要因が考えられるが、乾癬は肥満者に多く生じ、メタボリックシンドロームとの関連が話題となっている<sup>1)</sup>ことを鑑みると、生活習慣の西洋化がその要因の1つとして考えられる。

## I. 乾癬の疫学

わが国における乾癬の罹患率に関して、明確なデータはないものの、0.1%程度<sup>2)</sup>とされている。また、保険請求データベースからは0.34%程度と推計されている<sup>3)</sup>。北米や欧州における乾癬罹患率は日本よりも高く、おおよそ2~4%とされている<sup>4)</sup>。人種間に罹

患率の差があることが知られており、たとえば米国では白人に比して黒人の罹患率は0.7%と少ない<sup>4)</sup>。男女比に関して、欧米ではあまり性差はないとされている。たとえば、デンマークでのデータでは罹患率が男性3.2%、女性2.5%となっている<sup>5)</sup>。一方わが国では、日本乾癬学会の患者統計からは男女比が2:1と男性が多い傾向にあるのが特徴的である<sup>6)</sup>。また、男性のほうが女性よりも一般に重症であるとされる<sup>7)</sup>。次に年齢との関係であるが、乾癬罹患率は年齢とともに上昇し、ドイツのデータでは1歳時の罹患率が0.12%であるのに対して、18歳時の罹患率は1.2%であった<sup>8)</sup>。乾癬を長期観察した報告は少ないが、自然寛解が約1/3にみられ、最長54年後に自然寛解したという報告がある<sup>9)</sup>。また乾癬は日光との関連が考えられているが、緯度と罹患率との関連は乏しい<sup>10)</sup>。乾癬患者の7~8割は比較的軽症であり、外用療法のみでコントロールすることが可

Overview : epidemiology  
and diagnosis.  
Takafumi Kadono (准教授)